

工芸品(異種材利用)の試作研究-II

上原守峰*

業界からペーパーウェイトの試作依頼を受けたので、広葉樹間における組み合わせや錫をポイントにした製品開発を行なった。機能と形の点から大きく2タイプに分け14種45点の試作を通して加工性・装飾性などについての検討を加えた。

1. はじめに

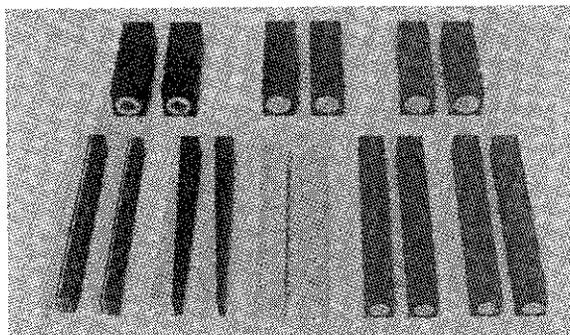
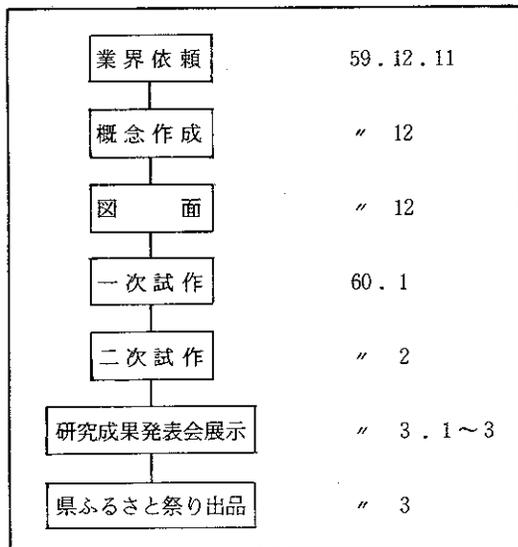
本県には様々の工芸品があるが、これらの技術交流は少なく、それに伴う商品開発事例も少ない。異種材の組み合わせによる商品は従来にない新しい効果を生みだすとともに、組み合わせの各工芸に対する理解も深まる。

そこで、昨年度から木材相互の色の対比や木材と他素材との組み合わせによる試作を行なっているが、本年度はペーパーウェイトに焦点を絞って効果を探った。

にし重りとして鉄の丸棒を入れた。木象嵌は穴径より0.5mm大きい径の丸棒を使用し、錫象嵌は木型で円柱状の錫を作ってから穴に埋め込んだ。

2. 概要

(1) 開発フローチャート



(A型)

- ① ② ③
- ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ① イスノキの両木口面に中の鉄棒を隠すために、カヤ材でリング状に象嵌したもの
- ② イスノキの両木口面に中の鉄棒を隠すために、カヤ材で円形に象嵌したもの
- ③ タブ材の両木口面に中の鉄棒を隠すために、錫で円形に象嵌したもの
- ④⑤ 材色の対比が強いイスノキとカヤを同じ比率で組み合わせたもの
- ⑥⑦⑧ カヤ、タブ、カン材の両木口面に錫を象嵌したもの

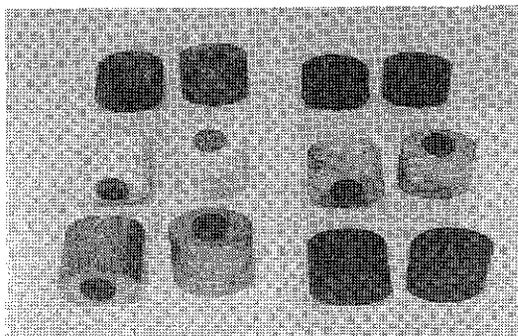
・寸法 27×27×210mm
37×37×120mm

(2) デザインコンセプト

- ・企業の入手しやすい材料で、将来も入手可能なもののできるだけ使用する。
- ・広葉樹を主体に使用し、これらの組み合わせによる新しい効果を探る。
- ・量産に適した単純な構成にし、ハンドワークをポイントに入れる。(木象嵌・錫象嵌・積層材)
- ・同形でも寸法や材色の変化をもつ商品構成にし、材料の有効利用を図る。

(3) 試作品

用途からA型(直方体)とB型(印籠型)の2タイプ



(B型)

* 技術部

2種類の階段を基本にして、高さ方向に寸法のバリエーションを設けたもので、材料はケヤキ、タガヤサン、ヤマグルマ、ダラ、カシ、イスノキを使用して材色の変化をつけた。

- ・寸法 50×75×55・60・70mm
45×75×45・55・60mm

3. まとめ

A型の方が、6面とも平面であるため量産に適しているし、紙を押さえる面積が広いので実用向けだが、シンプルな構成だけに装飾をすっきりとまとめる必要がある。B型は曲線を有しているため手間はかかるが、柔らかい感じが表現出来る。イスノキを基調にして他樹種の材色による効果を検討したが、色が濃いのでどの木とも調和するようである。ただし樹種の収縮率の違いから目違いが少々でるので接着面積が広がる構成を今後は追求していく。